

Title	学位授与者氏名及び論文題目
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	1979
Jtitle	慶應義塾大学大学院社会学研究科紀要：社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.19 (1979. )
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	学事報告
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000019-0099">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000019-0099</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 学 事 報 告

## 学位授与者氏名および論文題目

修 士 (昭和 53 年 3 月)

社会学修士 (社会学専攻のもの)

- 第 355 号 小川 雄一 遊び空間の利用パターン—児童・若年主婦層を中心として—  
第 356 号 柄澤 行雄 農業生産組織化と現代農村社会  
第 357 号 菊池 芳樹 閉山離職者の移動過程分析—松尾硫黄鉱山の事例的研究  
第 358 号 鈴木美知子 イノベーションの普及過程と言語的拘束性に関する一考察  
第 359 号 仙波 剛芳 星間コミュニケーション論序説  
第 360 号 早川 徹 近世末に於ける修験集落の存在様態, その一側面  
第 361 号 増井 晴子 ジャーナリズムと社会的迷信

第 362 号 李 昭永 韓国へのキリスト教伝播と他の諸宗教

文学修士 (心理学専攻のもの)

- 第 363 号 坂上 貴之 ハトの自動的反応形成における反応性刺激変化の効果  
第 364 号 東福寺一郎 属性を手掛かりとした検索過程—属性の familiarity を考慮に入れて—

教育学修士 (教育学専攻のもの)

- 第 365 号 佐伯千鶴子 WAI による自己概念の分析  
第 366 号 渡辺 英男 我国の外国語教育の目的論の考察—英語教育を中心にして—

## 博 士 (甲)

教育学博士

第 515 号 並木 博 昭和53年 3 月31日

交互作用として見た教授学習過程

[論文審査担当者]

主査 慶應義塾大学文学部教授

大学院社会学研究科委員

齋藤 幸一 郎

副査 慶應義塾大学文学部教授

大学院社会学研究科委員

村井 実

同

小川 隆

### [論文審査の要旨]

従来の教授・学習理論は連合論と認知論との2大潮流にわけることができるが、そのいずれにも共通する欠点は、個人差の無視という点で、これがキメのこまかい教育実践の実現にとって致命的な弱点となっていたといえる。本研究は、最も具体的には、すべての生徒に一律に同一の教授法を適用するという考え方を脱して、生徒の適性に応じた教授法を適時適切に適用することを目的としており、そのための研究方法として、教示方法や学習課題と学習者の適性との交互作用の確認と分析を行い、

これを通じて最適な教育プログラムを実現するための方法を見出そうとするものであって、その意味で、本研究は、学習理論の中に個人差への配慮が真正面からとり入れられた研究であるといえる。

こうした研究方向への端緒をひらいたのは、アメリカ、スタンフォード大学の Lee J. Cronbach 教授によるいわゆる ATI (aptitude-treatment interaction, 適性・処理交互作用) という概念であり、本研究は、十数年前、並木君が、当時来日中の同教授の講演から大きな感銘を受けて以来、この領域でのたゆまぬ一連の研鑽を重ねた結果の集大成ともうべきものである。

本論文は6つの章からなっている。

第1章「教育心理学の課題」において並木君は、従来の教育心理学一般への批判を含め、教育心理学のあるべき姿に関し、研究対象ならびに研究方法の両面にわたって幅広い省察を試み、その上でATIが、教育心理学において占める位置とその意義について述べている。

第2章「ATI研究の展望」では、これまで数多く行なわれてきたATI研究を種々な角度から分類整理した上で、これまでのものにはなかった並木君自身による新しい研究方法についての見通しをあたえている。

第3章「ATI研究の方法」では、従来のATI研究